



日本の風景 「松島」

松島(まつしま)は、宮城県北東部の松島湾内外にある約260の島々からなる諸島やそれを擁する多島海(島の数については諸説ある)。または、湾周囲を囲む松島丘陵も含めた修景地区のことである。日本三景の一つに数えられている。
文・写真引用元: Wikipedia/写真AC

高知赤十字病院の理念

愛され、親しまれ、信頼される病院づくりを目指します。

高知赤十字病院基本方針

- 人道・公平・中立・奉仕の赤十字基本原則を遵守します。
- チーム医療を推進し、患者様中心の安全で良質な医療を提供します。
- 高度医療の推進と救急医療の充実を図ります。
- 地域医療機関との連携を推進し、地域医療レベルの向上に努めます。
- 教育・研修の推進と次代を担う医療従事者を育成します。
- 災害時における医療救護活動への積極的な参加と支援を行います。

受診される皆様へ

私たちは、受診される皆様の権利を尊重します

- 平等かつ適切な医療を受ける権利
- 個人の人権が尊重される権利
- プライバシーが保障される権利
- セカンドオピニオンを受ける権利
- 医療上の情報及び説明を受ける権利
- 医療行為を選択する権利

私たちからのお願い

- ご自身の健康に関する詳細な情報を医師をはじめとする医療提供者にお知らせください。
- 治療や検査等は、理解し、納得したうえでお受けください。分からないこと等は、ご遠慮なく医師をはじめとする医療提供者にお問い合わせください。
- 病院内では他人の迷惑にならないようお願いいたします。
- 暴言・暴力行為があった場合、診療をお断りすることがあります。
- 医療費の支払い請求には、速やかな対応をお願いいたします。
- その他、より快適な入院生活をお過ごしいただくために、病院内の約束事についてはご協力をお願いいたします。



周産期初期蘇生は

まかしちよき



第一産婦人科部長 平野 浩紀

当院での産婦人科に係る蘇生講習会の歴史は2009年の新生児蘇生法講習会で幕を開けます。新生児蘇生法の基本形が出来上がったばかりで、全国に広めるために各県数名の産婦人科医が東京へ集められ、インストラクターになるための講習会を受け、資格を得たならやってみようかと比較的軽い気持ちで始めました。院内から院外へと対象者を広げ、孤軍奮闘、使命感とも単なる興味ともいえぬ不思議な気持ちで回数を重ね、2年後には全国で一番多く開催していました(NCPR News Letter Vol.2-2011)。それから10年ちょっと、定期的に開催を重ね、インストラクターを増やし、県外からも受け入れ、遠くは岐阜、長野、埼玉から受講に来て下さった方もいました。現在まで各種コースを計110回開催し、インストラクターは9名まで増加しました。

それでは講習の内容をご紹介します。新生児蘇生法講習会(Neonatal Cardio-Pulmonary Resuscitation NCPR)とは“すべての分娩に新生児蘇生法を習得した医療スタッフが新生児の担当者として立ち会うことができる体制”の確立を目指し、出生時に胎外呼吸循環が順調に移行できない新生児に対しての適切な心肺蘇生法の習得を目的とした講習会で、簡単に言えば、いつ何時遭遇するかわからない出生時の仮死に対して適切な初期蘇生を行ってその子の予後を改善するのが目的です。新生児の特殊性を考慮した蘇生法について実践的なトレーニングが行なわれます。この講習会が全国で開催されるようになってから、国内の早期新生児死亡率は低下しています。講習会にはA,B,S,Pコースの4種類あります。A,Bコースが主に病院、診療所の医療従事者向け、Sコースはその更新とスキルアップのため、Pコースは救急隊向けの病院外出生に対応するコースになっています。

2017年からは母体救命法講習会を始めました。これは妊産婦死亡の更なる減少を目指し、あらゆる職種の周産期医療関係者に対して標準的な母体救命法の習得を目的とした講習会です。それから5年ちょっと、定期的に開催を重ね、インス

トラクターを増やし、遠くは北海道、鹿児島から受講に来て下さった方もいました。現在まで各種コースを計45回開催し、インストラクターは15名になりました。

母体蘇生法講習会(Japan Maternal Emergency life-saving System J-MELS)とは一次医療施設から高次医療施設に搬送するまで、もしくは高次医療施設内で救急専門医が到着するまでの初期対応の習得が目的で、簡単に言えば、いつ何時遭遇するかわからない妊娠、出産時の異常に対して適切な初期蘇生を行って母体死亡を回避するのが目的です。妊産婦・産褥婦の病態の特殊性を考慮した心肺蘇生法等について実践的なトレーニングが行なわれます。この講習会が全国各地で開催されるようになってから、国内の母体死亡数は減少しています。

新生児にしても母体にしても生死にかかわるしかも予期せぬ異常が発生した場合に、我々産科医療従事者が対応できる医療には限界があります。やはり小児科医、救急医に応援をお願いしなければ生命を救うことはできません。しかし日本の大多数の病院、特に地方の病院では即時対応できる小児科医、救急医が少ないのが現状です。専門医にバトンタッチできるまで、専門性の高い医療を提供できるまでの初期対応を我々産科医療従事者が担っています。コロナ禍では開催できないこともありましたが、平和と安心が近づきつつある今日この頃、周産期医療の進歩のため、幸せなお母さんと赤ちゃんのため、今後も院内に限らず高知県内、四国内、日本全国に広めていきたいと思っています。



in イオンモール高知

自分の健康を 知ろう



イオンモール高知で「自分の健康を知ろう」と 題したイベントが開催されました!!

このほど、10月1日にイオンモール高知南コートにおいて健康イベントが開催されました。

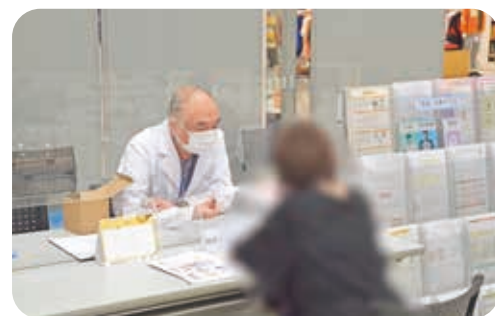
これは「自分の健康を知ろう」と題して、女性の健康をテーマに男性も含めて関心を持ってもらおうという趣旨で企画されたもの。株式会社ドゥイブスサーチの提案をもとに、イオンモール株式会社と高知赤十字病院が共催で参加するという形で実現しました。

当日の会場では、3者によるブース展示に加えて、ステージでそれぞれのプレゼンテーションが披露され、多くの皆さまにご来場頂きました。

イオンモールからは、生理や更年期にまつわる不調など女性特有の健康の悩みを最新技術を生かして解決する「フェムテック」の専門店byeUSによる商品展示、ドゥイブスサーチからは「無痛MRI乳がん検診」の紹介とこの検診の普及にご尽力頂いているブランローズ代表佐田美千代さんとのトークショー、当院からは、がん相談・健康相談・検診体験が提供されるとともに救急医療などの取り組みも紹介されました。

とりわけ、検診体験の内臓脂肪検査(ファットスキャン)コーナーは終日盛況で、50名の方に体験して頂きました。

当院では1月から「無痛MRI乳がん検診」を導入し、実績を積み重ねてきました。乳がんは女性が罹患するがんの中で最も多く、女性のがん死亡原因のトップとなっています。早期発見・早期治療が有効とされているものの、検診の受診率は5割程度に留まっており、その理由の一つに、マンモグラフィー検査の痛みを躊躇されていることが挙げられています。当院の取り組みが今後のがん検診受診率の向上に寄与できることを願っています。





“医療ソーシャルワーカー”をご存知ですか？



突然のケガや病気をすると、患者も家族も病気だけでなく、治療の不安、医療費や生活費、仕事や学校、後遺症や傷害などを負い、人によっては、今後の生活環境ガラッと変化します。そのような不安な時に医療機関において、患者・家族の相談内容を聞き、社会福祉の立場から経済的・心理的・社会的問題の解決と調整を図り支援を行っているのが、医療ソーシャルワーカーです。



どこにいますか？

病院によって窓口の名称は異なりますが、当院では
2階「医療相談室」までお越しください。

まずは、スタッフに「**困っていることがあるので、相談員さんに相談したい**」と尋ねてみてください。



医療ソーシャルワーカー
谷内 光代

高知赤十字病院 駐車場ご利用案内

駐車料金

外来患者さまは、無料です。2階 総合受付計算窓口へ駐車券をご提示ください。
上記以外の方は、60分までは無料、以降30分ごとに100円が加算されます。
1日の上限額は、500円です。

【駐車料金が無料になる場合】

- ・入院日
- ・手術・検査でのご家族付添い
- ・小さなお子さまの付添い
- ・病院からの呼び出し(病状説明等)
- ・退院日

※上記の場合は無料となりますので、時間内は2階 総合受付計算窓口、時間外は救急外来受付にお申し出ください。



皆さまへよりよい情報提供ができる紙面づくりを目指しております。
本誌に対するご意見やご要望などございましたら、高知赤十字病院医療事業・広報課までお寄せください。
(088-822-1201 (代表))

